



『エンジョイ ロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『夢をかたちに』

～Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年12月22日

No. 19

平成20年12月8日

卓話 『これからの日米関係』

ジャーナリスト・共立女子大学講師

堀 徹男 様

皆さまこんにちは。今、世界的に経済危機が襲っています。アメリカではビッグスリーの救済問題で140から150億ドル出すという。しかしこれは単なる越年資金であって経営危機に変りありません。共和党議員がこれに猛反発しています。3社の株式時価総額を合計してもトヨタとかBMWに届きません。それを上回る援助をする必要はないというもつともな話です。今度もビッグスリーの経営者がアメリカの公聴会に専用機で来てけしからんと言われる。自分たちの体質を改善しないで、政府、議会に救済してくれという。アメリカを象徴するビッグスリーがこういう状況。これは取りも直さず、崩れ行くアメリカの一極体制です。例えば経済。ご承知のように世界の金融システムでの超大国の座を降りました。外交安保も弱体化した。例えばグルジア紛争。あれを停戦にこぎつけたのはアメリカじゃなくてヨーロッパです。イラク戦争のときにもフランスやドイツなど同盟国が反対する。そこにアメリカの現実の姿があると思います。そしてこの間のサミットでもアメリカは主導権が取れない。こういうふうにジリ貧を続けているアメリカの姿を見るとき、果たして日本はこのアメリカと本当に同盟を結んで突き進んでいいのかという大きな疑問を持ちます。そうしたところでオバマ政権が登場です。

オバマさんは民主党ですが、ルーズベルトからクリントンまで歴代の民主党の大統領は就任すると同時に舵を右に切ります。例えば76年のカーターと92年のクリントンは2人とも南部出身、しかもバティスト教会の信者でリベラルには程遠い人達です。オバマさんは本質的には保守的で、きちんと教会にも通います。僕は思うんですけど、アメリカは実は変化が苦手な保守王国です。じゃあ何でオバマさんがチェンジって言ったのか。これはク

リントンが登場したとき、ブッシュのお父さんが湾岸戦争で大勝利を収めて帰ってきたわけですよ。再選間違いなしと思ったらばたんと落ちたでしょ。これはもう外国に強くなくていいから国内の我々の生活を守ってくれということで凱旋将軍が負けたんですね。今度も、こういうひどい危機の中で、やっぱり何かを変えてもらいたいという国民の強い要望が、ベトナム戦争の素晴らしい軍人だというのを倒して勝利をつかんだ。オバマさんも中道政治の重要性はよく知っているわけです。ですからクリントン政権の閣僚をうまく登用している。それからヒラリー・クリントンさんを入れた。ということは矢張り舵を右のほうに切っていくという傾向が出てきます。

日本は共和党とのパイプはあるけど民主党ではないと、よく言われます。だから今外務省は大慌てです。今度の民主党の幹部の話を聞きますと、「日本とは同盟関係は維持しますよ。しかし自分で判断して自分で行動してください。」という姿勢です。そこがオバマ政権の対日政策で大きく違う点です。何でもかんでもアメリカについていくというこれまでの姿勢は通用しなくなると思います。本当に多極間のつばぜり合いの外交戦略を立てていかなきゃならない。アメリカ一辺倒じゃもう信用されないんですね。アメリカも一つの国。日本も一つの国。さあ日本の近隣諸国で本当の親友がいますか。日本にはいないんです。だから一人でも二人でも親友を作ることが、これから日本が生き抜く上で大きなポイントだと思います。

